

サンホーム便り



「軽費老人ホームの設備及び運営に
関する基準省令 施行について」

園長 池田 清彦

平成十九年三月三十一日に厚生労働省より「軽費老人ホームの設備及び運営に関する基準(案)」のパブリックコメント募集がありました。一年を越え、同基準が平成二十年五月九日付け官報において公布され、同年六月一日より施行されることとなりました。

軽費老人ホームはこれまで、昭和三十八年度の老人福祉法制定時に制度化された「A型」、昭和四十六年度に制度化された「B型」、平成元年度に制度化された「ケアハウス(C型)」の三種類に分類されておりました。

しかし平成十六年二月に、介護保険サーピスとの関係など、今日的なあり方をめぐり、厚労省の「養護老人ホーム及び軽費老人ホームの将来像に関する研究会」によって、今後はケアハウスを基本とし、A型・B型施設の円滑な建て替え誘導をうながすという内容の「軽費老人ホームの将来像」が研究会報告書に位置づけられました。

同年、事務費補助金が一般財源化された

ことに伴い、施設への指導監督を行うために法令上の根拠が必要となり、基準省令施行となりました。

省令は「軽費老人ホームの将来像」の考えに沿い、これまでのケアハウスを基本とした「軽費老人ホーム」について三十三カ条と「経過的軽費老人ホーム」を位置づけた「附則」十九カ条から構成されております。

このたびの基準省令施行により、軽費老人ホームは、法制度上「ケアハウス」の内容を基本としたものとなり、「A型」「B型」は「経過的軽費老人ホーム」として位置づけられ、建て替え時にはケアハウスへ移行しなければなりません。反面、建て替えまでは現在のA型・B型としての運営が担保されたこととなります。

基準省令施行は、職員配置の弾力化、必要書類、記録の整備、等々サンホームにとっても大きな変革をもたらします。しかし「転機は好機」と捉え前向きに、法律遵守と事業の透明性を図り、利用される方たちと共にこの変革を乗り切りたいと思います。サンホームがいつまでもサンホームであり続けるために、皆様のご協力、ご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

日帰り旅行!



雷門前にて 集合写真

「日帰り旅行をおえて」

松野 好美

五月二十日に総勢二十五名で日帰り旅行に行ってきました。年度末のアンケートの中で希望があり、且つミニドライブでは行くことのできない、都内の観光スポットをまわりたいと思い、東京タワー、浅草のコースにしました。

当日の天気は台風。暴風雨の中の出発となりましたが、東京タワーに着いたときには雨もあがり、展望台からの眺めは最高だったと皆絶賛されています。蠅人形館の見学をされた方は、本物そっくりな今にも動き出しそうな蠅人形をじっくり見学されました。

車は東京タワーから皇居を通り浅草へ。昼食後に浅草寺と仲見世通りの散策をしました。道路渋滞のため予定時間よりだいぶ遅くなってしまい、散策時間を三十分しかとることができませんでした。見所の多い

浅草なだけに、かなりせわしないう散策になってしまいました。今回じっくり散策できなかったところは、次回来たときの楽しみにとっておきたいと思えます。

結果的には天気にも恵まれ、また事故もなく無事に日帰り旅行を終えることができました。バスを降りる際、何人もの方から「楽しかったよ。」という言葉を聞くことができ、ほっとするとともに、また喜んでいただける旅行を企画したいと思います。次回は十一月に一泊旅行を予定しています。たくさんの方の参加をお待ちしています。



東京タワー 蠅人形館にて

行事予定！！

ひかり苑・サンホーム合同
サマーコンサート

日時 平成20年8月9日(土)
夕方6時～
場所 園庭駐車場にて



入場料無料
模擬店(有料)がございます。

当日は駐車場が使用できませんので、御車でのご来園は控えさせていただきますようお願い申し上げます。

サンホーム・ひかり苑合同
納涼大会

日時 平成20年8月29日(金)
夕方6時～
場所 サンホーム 屋上にて



模擬店(有料)がございます。

ご家族・保証人様のおいでをお待ちしております。なお、園内行事ですので、一般の方はご遠慮いたします。

サンホーム 開寮四十五周年
敬老会

日時 平成20年9月12日(金)
午前7時30分～(予定)
場所 サンホーム内にて



ご家族・保証人様がおいでの際には軽食の準備をさせていただきます。事前にご連絡いただければ幸いです。

サンホームひかり苑
合同バザー(さやま園祭)

日時 平成20年7月26日(日)
午前7時00分～(予定)
場所 園庭駐車場



当日は駐車場が使用できませんので、御車でのご来園は控えさせていただきますようお願い申し上げます。
(さやま園グラウンド)

バザー品の寄贈も合わせてお願い申し上げます。

行事に関するお問い合わせは

サンホーム 相談員 澤田まで

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会サンホーム		施設番号	123・0003
	評価結果に基づく現状分析 (19年度)	改善計画 (19年度末時点)	実施状況 (年月時点)	
職員のやる気の向上とP・D・C・Aのスパイラルアップについて	法人主導の新人事制度の推進が図られていますが、職員ごとの指導ニーズと組織目標の統合、それに基づくOJTの計画策定、具体実施等はされていないことが現状です。業務の効果的な推進手段としてのPDCAの実践とスパイラルアップについても、施設独自の「気づきシート」を導入していますが、的確な指導が出来ず、また職員もシートに記載する前に答えを得ようとするため、会話での問題解決が多いのが現状です。PDCAサイクルを加えた指導は今後の課題と考えます。	組織目標と指導ニーズに関しては、組織目標のブレークダウンと可視化することにより統合してまいります。また個々の指導においてもPDCAサイクルに基づいた指導を行い、「なぜ？」と職員一人ひとりが疑問を持てるよう計画をすると共に、「なぜ？」と言える職場環境、風土の形成に取り組みます。		
個別支援計画の上手な活用と利用者への説明について	昨年度まではKOMIチャートを活用した個別支援計画を作成していましたが、利用者のADL低下、計画の説明と同意の必要性から平成19年度は施設独自の予防プランを作成した段階であります。評価の通り活用がされていない現状であります。	個別支援計画の活用と、検討する場としての会議のあり方を検討いたします。平成20年度は全ケースの課題検討を主とした取組とし、利用者への説明のあり方、書式の再検討、各項目の見直し、作成の手引きを年度内に検討～利用者への説明、同意～活用へとつなげてまいります。		
家族への情報提供と交流について	家族への情報提供は年2回の施設便りと家族会が主でした。また施設便りもカット絵ばかりでは幼稚であるとの声より文章が多いものでありました。施設においでになる家族とは交流が図られますが、遠方の家族とは交流が図られない状況です。	施設で生活する様を家族にお伝えし、交流を図ることは重要な課題です。個人情報の問題もありますが、情報開示に向けた取り組みが必要です。また、個別支援計画を進める中でも家族との交流が必要です。これらより、情報開示に向け利用される方々の同意を得てホームページや紙面を活用した写真等の掲載に向け取り組んでまいります。また行事等にご家族を招待し、交流を図る機会を増やします。		

※ この様式は、「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※ 「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※ 第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。

私たちの施設は、都からの補助や利用者からの利用料等によって運営されています。

(軽費老人ホーム)

施設名	サンホーム	施設番号	123・0003
-----	-------	------	----------

平成 19 年度におけるデータ

総事業費（事業活動支出）	166,196,846 円
人件費	66,305,931 円
定員数	50 人
利用者数（平成 19 年 4 月 1 日現在）	50 人
常勤職員数（平成 19 年 4 月 1 日現在）	13 人
非常勤職員数（平成 19 年 4 月 1 日現在）	2.1 人

施設の収入（サービス推進費の状況等）【平成 19 年度実績】

軽費老人運営費補助（都が定める運営費補助【負担率 都 10/10】）	67,925,400 円
利用料	40,945,680 円

サービス推進費交付額（都独自の運営費補助）*注 1	27,976,000 円	
① 社会福祉法人の施設運営にかかる基本部分の経費	計	18,480,000 円
② 施設の努力に対する加算	計	3,427,690 円
者評価の受審・サービス向上に向けた計画制定	第三者評価又は利用者調査	600,000 円
介護の割合が高い入所者（要支援・要介護非該当）に対する必要な支援	43 人	1,310,21 円
医療機関への付き添いが必要な入所者（要支援・要介護非該当）に対する通院動向	33 人	207,200 円
入所者く要支援、要介護非該当）に対する介護予防の取組	358 人	1,310,280 円
③ 施設の経営改革を推進し‘利用者支援の取組を進めるための経費	計	3,002,664 円
経営コンサルタントや外部監査等の活用		2,992,500 円
（例：経営目標・経営課題の設定、職員の意識改革、業務改善等）	主な内容	経営目標、課題の設定
経営改革を推進する人材の育成（研修の受講）	1 人	10,164 円

※ この様式は「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金要綱」の規定に基づき、

利用者の皆様にお知らせするためのものです

※ 事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書は、閲覧を希望される方に公開しています。

注 1) 平成 20 年度までは「サービス推進費交付額」の金額と ①～③ の合計額は一致しないことがあります。

サンホーム

「平成十九年度 東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金」について報告いたします。

「淘汰的生存論」・「晩年長寿」

中山 幹

旧制福岡高校を卒業して在京の者が毎月集まって昼食した後、誰かが一時間、卓話をする。旧制高校は戦後間もなく消えてしまったから、最も若い最後の卒業生が七十六歳。ジジイばかりで、毎回、訃報が絶えず、総員は次第に減っていくが、それでも毎月五十人くらいは集まっている。

卓話のテーマにひかれて六月、七月と続けて出席した。六月は、一年後輩の元東京大学経済学部教授の「寿命論」、七月は四年先輩の東京大学医学部卒・沖中内科を出て成人病・老人医学にずっと携わってきた医師の「後期老人の健康」だ。

寿命の話は、お得意の統計学だけでなく人類学、生物学もひきながらの興味深いものだったが、なかでも、八十歳を越すと九十歳まではラクに達するという話には驚いた。これは日本だけのことではなく、フランスでもアメリカでもそうらしく、「淘汰的生存論」という。「人間の老化の進行は、八十歳を越えると著しく減る。これはもともと身体に生活習慣病とか何かの故障などのある人は、さつさと早く死に、健康に恵まれている人だけが、八十歳を越えて残る結果だ」そつだ。「晩年長寿」という言葉も

あるという。ただし、生きのびているだけでは、ダメで、心身ともにまあ健康といえる状態であつての話。そのための彼の体験的アドバイスもあつた。

翌月の医師の話は、そうであるための心構えと方法の話で、知っていることも多くあつたが、あらためて教えられることがいくつがあつた。

もう二、三年なら生きのびられるだろうと思つていた私は、力づけられた思いがする。なるほど、それならもう五、六年は生きられそつだ、と気をよくした。

ただし、生きのびる心構えとして、いくつか項目があげられたが、歩け、というのが苦手である。脚力が衰え、われながらトボトボした歩き方だと思つ。後ろからきた若い女性がアツという間に私を追い抜いてたちまち遠くへ去つてゆく。口惜しい。

しかし、少し速度を早めると、片肺のため呼吸が苦しい。階段上りなんて、とんでもないことで、少しの上り坂もダメ。この足の衰えをどうするか、これが問題とあらためて知つたが、どうすればよからう。

年代別統計で八十歳を過ぎての死因のトップが肺炎になつているのには、ドキリとした。風邪をひくな、そのための一般的注意の他に、インフルエンザ・ワクチンと肺

炎双球菌ワクチンを打てという。後者のワクチンを打つていたのに、私は肺炎に罹つた。このワクチンは効力が五年だが、一度打つと、二度はダメだという説があるらしい。これは、ちゃんとした医師に確かめなければならぬ。寝る前に歯を磨けというのは、うなづける。これは実行している。歯周炎は肺炎をしばしばひき起こすらしいのだ。さらに、寝る前にコップ一杯の水を飲めという。壮年まで人間の体の六三％は水であるが、老年になると五三％に減るそつだ。これは細胞の中の水分である。ことは重大。夜中のオシッコを気にせず、水を飲んでいないといけないのだ。細胞内の水分が問題なのだとはい、知らなかつた。

最後に、六月の卓話者が七月の卓話者に質問した。聖口力の日野原さんの長命は、本人の努力によるか遺伝体質によるか。医師は少し考えて、笑いながら、ご自分の努力もさることながら、どうも遺伝ですな、と言つた。話は混沌となつた。

私は、長命は望むが、社会への貢献はゼ口で負担だけ掛けることになるのは目に見えていけるけれど、どう考えていけばいいのだろう、と質問したかつた。しかし、それは全く別の問題であり簡単に答えられるはずはないと思ひ、質問するのを止めた。

新入居者のご紹介

平成二十年二月十日 入居

山本 アサ 様

平成二十年二月十日よりサンホームにお世話になっております山本アサと申します。北九州で生まれ、一歩も北九州を出たことがありませんでした。この度一大決心をして本州の東京に出てまいりました。

今まで九州弁で生きてきたので、東京弁が分かりません。

サンホームでは初めての経験が多すぎて、どうしていいか分からない毎日を送っています。

できればサンホームで末永く、楽しくこれからの人生を送りたいと思っています。よろしくお願いいたします。



平成二十年五月二日 入居

前田 永子 様

5月からサンホームへ入居いたしました前田永子です。昭和五年二月二十二日生まれの七十七歳です。

入居して2ヶ月を過ぎ、だんだんとサンホームの暮らしもなれてきました。いろいろとサークルもありますので、積極的に参加して頭を活性化させて暮らしたいと思っています。まわりの方々もよい方ばかりですので、うれしいです。時間がいっぱいあるのですから、これから自分なりに考えて楽しい日々を自分で作り出し元氣のある暮らしをしたいと思っています。

子供たちは「ママ、いっぱい働いてきたから、ゆっくりすごせばいいのよ!」と喋ってくれますが、これからの私の生活は又自分で作り出し楽しい老後を送りたいという気持ちでいます。

入所した頃は心底とても淋しかったですが、今はすっかり慣れてきました。体を動かすことを考えて、若さを保ちつづけたと思います。

肩たたき制作

今回は4月のレクリエーションで制作した「肩たたき」をご紹介します。

準備するもの

固めの広告・セロハンテープ

ガムテープ・編み棒もしくは鉛筆

作り方

編み棒を軸に広告を筒状に丸めセロハンテープで止めます。筒状にしたら編み棒は抜きます。苺本位筒状のものができたら、まとめて根元をガムテープで止めます。

あら簡単 肩たたきの出来上がり



新人職員のご紹介

栄養士 大塚千尋（オオツカ チヒロ）

（平成二十年五月一日）

介護員 伊藤華恵（イトウ ハナエ）

（平成二十年六月十八日）

『新世界』

栄養士 大塚 千尋

今年の5月からこちらで栄養士として働く事になりました。

私は今まで委託会社の栄養士として同胞援護会の昭和郷に2年、その後、青梅の病院に1年勤めていました。

今まで利用者の方や患者の方とほとんど関わりを持たずに働いてきた私にとってサンホームは異世界のような場所でした。

利用者の皆さんがびっくりするくらい元気でしつかりしていること。それぞれ食事に色々な思いがあり、それに対しての要求や意見があること。その意見を聞くために食事懇談会があること。また食事の時や廊下で合った時に、皆さんが意見を言いにくてくれること。定例会というものがあること。

こんなに利用者の皆さんに関われる機会があることにびっくりし戸惑いました。正直どうすればいいのかわからず手探り状態でした。

ですが、園長や介護員の方にサンホームにはサンホームでしかできないことがあると聞き色々教えていただき、考えました。

特養や病院と違い元気な方の施設。それを利点に考えると色々なことに挑戦できるのではないかと。色々な可能性があるのではないかと。色々な可能性があるのでないか。

そう考えるとサンホームは異世界ではないかと。新世界なのではないかと・・・

私はまだまだ未熟な栄養士です。ですが利用者の皆さんや園長、介護員の協力の下、色々なことにチャレンジし、より多くの方に喜んでもらえる食事の提供を目指し頑張っていきたいと思えます。宜しくお願いします。

「自己紹介」

介護員 伊藤華恵

本年6月より勤務させていただいております伊藤華恵と申します。

これまでも介護施設に勤めておりましたが、利用状況の全く違うサンホームの利用者様に自分には何が出来るのか戸惑う毎日です。

まずは皆様に気持ちよく安心して過ごして頂けるよう、努力してまいります。どうぞ宜しくお願いします。

表紙の写真

荒木氏 撮影

「中央公園にて」



発行
平成 20 年 8 月 1 日
社会福祉法人恩賜財団
東京都同胞援護会
サンホーム
東京都東村山市富士見町
2-7-40
Tel 042-391-3274
Fax 042-391-3366
E-mail
Sunhome-c@douen.jp

サンホームだよりに掲載されている文章・個人写真等は個人情報保護の観点から全て御本人又は保証人様の承諾を得て掲載しております。